

## 教育部会用自己点検・評価報告書（様式1）

### 全学共通教育についての自己点検・評価報告書（教育部会会）

教育部会名：外国語第 I  
部会長名： 加藤雅之  
作成者名： 加藤雅之

#### 概要（2000 字）

##### 1. 運営体制

外国語第 I 教育部会の企画運営に関しては、下記の組織を通じて行なった。

###### (1) 幹事会（月 1～2 回、随時開催）

部会長： 加藤雅之（全般、非常勤講師）

幹事： 島津厚久（教科書、予算）

幹事： 大和知史（時間割）

幹事： ティム・グリア（グローバル英語コース CALL）

###### (2) 英語教育企画委員会（国際コミュニケーションセンターに設置の委員会、毎月第 2 金曜日に開催）

###### (3) 英語教育部会（毎月第 3 金曜日に開催）

部会構成は以下の通り：

専任	国際コミュニケーションセンター	9 名
	国際文化学部	18 名
	文学部	1 名
	海事科学部	1 名
	（非常勤講師	40 名）

##### 2. 授業・カリキュラムについて

平成 26 年度に引き続き、通常の英語ベーシック・アドバンストカリキュラム、「グローバル英語コース（GEC）」、理系学部向け特別編成カリキュラム、オーラル III、リーディング III 再履修を行った。また、昨年度からの検討結果を受けて、平成 28 年度からの新カリキュラムを策定した。

###### (1) グローバル英語コースの充実・実施

グローバル人材育成推進事業の一環として、平成 25 年度に英語において、グローバル英語コース（GEC）を導入した。今年度は 3 期目の学生対象に、文系・社会系学部の 1 年次学生の中から、原則として、外部試験の成績により、約 250 名の学生を選抜して、後期から授業を開始した。合わせて、KALCS にライティング・セミナーを開設し、夏季・春季休暇において英語セミナーを開催するなど、学生の英語運用能力向上の一助となった。

今年度の短期外国語研修は昨年度の 2 カ所派遣を見直し、グリフィス大学に集中してカンファレンス・モデルに基づいて PSA の 65 名の学生が参加した。帰国後のアンケート調査では大部分の学生が満足したと回答している。

###### (2) 特別編成クラス

理系学部では、今年度も継続して「英語リーディング II」においても実施した。本年度の受講者は「英語オーラル II」が 63 名、「英語リーディング II」は 62 名であった。

(3) 平成 28 年度からの英語教育改革案

クォーター制の導入を機に、これまでのリーディングとオーラルを中心としてクラス分けを再編し、以下の新規カリキュラムの導入を行うこととした。

English Literary A1/A2, B1/B2

English Communication A1/A3, B1/B2

Productive English 1/2

Autonomous English 1/2

このうち、Literacy と Communication については、従前の written English/ oral English のカテゴリーを踏襲しつつ、それぞれ writing や speaking にも十分注意を払う授業を行うこととなった。また、Autonomous では、学生の自律学習習慣の確立を目的とした e-Learning 形式をとることとした。

また、海外研修の時期を確保するため、学年進行を見直し、工学部・理学部では 1 年生で 6 単位を修得できような時間割を編成した。

3. 英語部会の FD 等の取り組み

外国語第 I 教育部会では、今年度、国際コミュニケーションセンター主催の公開外国語教育セミナーや外国語授業ピアレビューに参加する各教員で、FD 活動を行なった。

また、平成 28 年 3 月 8 日開催の外国語科目担当教員ガイダンスの分科会において、FD 活動の一環として、授業紹介を行い、意見交換を行った。

<2016 年度>

第 19 回外国語教育セミナー

日時 2016 年 2 月 9 日 (火) 15:00~16:30

会場 神戸大学鶴甲第 1 キャンパス D 棟 D 615

講師 森住衛先生 (大阪大学名誉教授、関西外大客員教授)

題目 「日本の英語教育における 3 つの二重機能 — 高大の外国語教育を考える視点 のために —」

企画 国際コミュニケーションセンター システム研究部門

<2015 年度>

第 18 回外国語教育セミナー

日時 2015 年 12 月 11 日 (金) 15:10~16:40

会場 神戸大学鶴甲第 1 キャンパス D 棟 D 504

講師 近藤 野里 先生 (名古屋外国語大学)

題目 「名古屋外国語大学の外国語教育 - 専攻語と複言語プログラム -」

企画 国際コミュニケーションセンター 学術交流研究部門

第 17 回外国語教育セミナー

日時 2015 年 12 月 4 日 (金) 9:50~12:10

会場 神戸大学鶴甲第 1 キャンパス D 棟 D 615

企画 国際コミュニケーションセンターコンテンツ研究部門

内容

◆ 第 1 部 (9:50~10:40) 国際コミュニケーションセンター 教員ピアレビュー

柏木治美教授 (英語)

加藤雅之教授 (英語)

高橋康徳講師 (中国語)

◆第2部（10:40～12:10） 講演会

演題：「タグ自動識別機能付きコンコーダンサーと外国語教育への応用 について」

講師： 于康先生（関西学院大学）

第16回外国語教育セミナー

日時 2015年7月24日（金）15:00?17:00

会場 神戸大学鶴甲第1キャンパスD棟D504

講師 山西博之先生（関西大学）

題目 「関西大学における e-learning を活用した授業外英語学習の現状と今後の展開」

企画 国際コミュニケーションセンターメディア研究部門

4. BEEF Venture について

部会関係の資料収蔵および、意見交換の場として、BEEF Venture 内に部会専用のコースを開設し、今後広く活用することとした。

5. 自己点検・評価報告について

ほぼすべての点検項目において目標が達成されていることが確認できた。

教育部会自己点検・評価シート（様式1）

項目・観点ごとの記述

基準5 教育内容及び方法

5-1 【教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）が明確に定められ、それに基づいて教育課程が体系的に編成されており、その内容、水準が授与される学位名において適切であること。】

5-1-③： 教育課程の編成又は授業科目の内容において、学生の多様なニーズ、学術の発展動向、社会からの要請等に配慮しているか。

観点に係る状況（150字以上：202字）

リーディング系科目ではニュース、小説、エッセイなど多様なジャンルの文章を読む工夫がなされていた。オーラル系科目では、さまざまな AV 媒体を活用し、英語音声に親しませるとともに、スピーチやプレゼンテーションなどの制作物（プロダクト）を生成するなど、アクティブ・ラーニングを意識した指導方法が多く取られていた。また、音声学、コーパス言語学や認知言語学的観点から最新の研究成果を取り入れた指導も多くなされていた。

根拠資料

- ・シラバス
- ・世界で広く読まれている雑誌をもとに作成された教科書
- ・授業中の配付教材
- ・学習管理システム(Moodle)上における掲示、参考情報

## 5-2【教育課程を展開するにふさわしい授業形態、学習指導法等が整備されていること。】

5-2-①： 教育の目的に照らして、講義、演習、実験、実習等の授業形態の組合せ・バランスが適切であり、それぞれの教育内容に応じた適切な学習指導法が採用されているか。

観点に係る状況（150字以上）（166文字）

各クラス、平均 40 名弱の人数配分がなされており、その中でタスクやアクティビティに応じて、ペアやグループなどの少人数編成が取りいれられており、多様な授業形態が展開されている。また、文法説明や、DVD の視聴、学生の発表、発表に対するフィードバックの活用など、外国語学習のさまざまな局面で、それぞれの目的に最適化された授業形態が選択されている。

根拠資料

- ・シラバス
- ・授業記録
- ・配布物

5-2-②： 単位の実質化への配慮がなされているか。

観点に係る状況（100字以上）（124字）

ほぼすべての授業で復習および準備学習の指示が的確になされているのが確認された。また、BEEF 導入の 2 年目にあたり、徐々に活用される授業も増えている。単に、宿題・予習を義務化するというのではなく、自律的学習の一環としてとらえる観点が不可欠であると思われる。

根拠資料

- ・シラバス
- ・BEEF の活用

5-2-③： 適切なシラバスが作成され、活用されているか。

観点に係る状況（50字以上）（99字）

本部会では、基本的な部分は全員で協議した共通シラバスとして提示した上で、各教員の研究・教育背景に応じた調整を行っており、結果的にさまざまなアプローチと多様なコンテンツがダイナミックなバランスをとって共存している。

根拠資料

- ・シラバス

5-2-④： 基礎学力不足の学生への配慮等が行われているか。

観点に係る状況（100字以上）（134字）

各授業でオフィスアワーを設ける等、教員個人で対応するとともに、国際コミュニケーションで行っているランゲージ・ハブ、KALCS、e-Learning 教材などを通じた教室外活動への参加を促している。また、リーディング III とオーラル III については、再履修者専用クラスを設けて、きめ細かい指導を行っている。

根拠資料

- ・シラバス
- ・外国語教育ハンドブック

**5-3 【学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）が明確に定められ、それに照らして、成績評価や単位認定、卒業認定が適切に実施され、有効なものになっていること。】**

5-3-②： 成績評価基準が策定され、学生に周知されており、その基準に従って、成績評価、単位認定が適切に実施されているか。

観点に係る状況（100字以上）（113字）

シラバスの段階で、成績基準の策定と公表は義務付けられている。外国語教科の特性上、期末テストだけの成績ではなく、授業への取り組み、小テスト、プレゼンテーション、ポスター発表、筆記試験など、さまざまな評価基準が組み合わされている。

根拠資料

- ・シラバス
- ・授業での説明
- ・BEEFでの説明

5-3-③： 成績評価等の客観性、厳格性を担保するための措置が講じられているか。

観点に係る状況（100字以上）（105字）

部会長および幹事が、各教員のシラバスをチェックし、厳格な成績評価基準や、多様な評価方法について客観性・厳格性が保たれていることを確認しており、定例部会でも機会を設けて、これらの重要性について注意を喚起している。

根拠資料

- ・シラバス
- ・授業での説明
- ・部会議事録

**基準6 学習成果**

**6-1 【教育の目的や養成しようとする人材像に照らして、学生が身に付けるべき知識・技能・態度等について、学習成果が上がっていること。】**

6-1-②： 学習の達成度や満足度に関する学生からの意見聴取の結果等から判断して、学習成果が上がっているか。

観点に係る状況（100字以上）（169字）

学生による総合評価を基準にした回答ではほぼ、3.5以上の数値を根拠にして学習成果が上がっていることが確認できた。それ意外にも授業の中で独自にアンケートを実施している教員もいる。振り返りアンケートによる数値を使用する場合は、回答者数があまりに少ない場合の信頼性の問題があり、この基準を正確にクリアしたとみなすことは非常に困難と言わざるを得ない。

根拠資料

- ・授業振り返りアンケート

## 基準7 施設・設備及び学生支援

### 7-1 【教育研究組織及び教育課程に対応した施設・設備等が整備され、有効に活用されていること。】

7-1-④： 自主的学習環境が十分に整備され、効果的に利用されているか。

観点に係る状況（50字以上）（79文字）

国際コミュニケーションセンターでは教室外の学習環境として CALL 自習室や、ランゲージ・ハブ、KALCS、e-Learning 教材などを整備しており、初回のガイダンスで詳しく説明を行っている。

根拠資料

・外国語教育ハンドブック

### 7-2 【学生への履修指導が適切に行われていること。また、学習や課外活動等に関する相談・助言、支援が適切に行われていること。】

7-2-①： 授業科目のガイダンスが適切に実施されているか。

観点に係る状況（100字以上）（123字）

本部会では、第1回目の授業で「外国語教育ハンドブック」を利用した授業ガイダンスが実施されており、英語のカリキュラム、GEC コース、授業紹介、外部テストサポート、ハブ、CALL 自習室、KALCS 案内など、神戸大学における外国語学習についての包括的な情報を伝えている。

根拠資料

・外国語教育ハンドブック

7-2-②： 学習支援に関する学生のニーズが適切に把握されており、学習相談、助言、支援が適切に行われているか。

また、特別な支援を行うことが必要と考えられる学生への学習支援を適切に行うことのできる状況にあり、必要に応じて学習支援が行われているか。

観点に係る状況（100字以上）（117字）

部会全体としては、ハブ室での学習相談、CALL 自習室、KALCS などの授業外での外国語サポートを行っている。また、教員個人もオフィスアワーやメールでの学習相談、支援を行っている。特別な支援を必要とする学生に対する全体的な対応は今後の検討課題である。

根拠資料

・シラバス  
・外国語教育ハンドブック